

[連載] 第8回

清々しき人々

月尾嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

一人で20万人分の戦果をあげた 明石元二郎



明石元二郎 (1864-1919)

日露戦争への道筋

一五世紀後半からポルトガルとスペインを先頭にして、イギリス、フランス、オランダ、アメリカなどが海洋に進出し、自国の領土を拡大する競争を開始してきます。鎖国政策の日本と交易を許可されていたポルトガルとオランダは例外として、早期から日本に接近してきたのがユーラシア大陸の西側から東側までを領土とするロシア帝国でした。すでに一八世紀末期から軍艦が蝦夷地といわれた北海道に接近し、一部は上陸しはじめます。



図1 ロシア帝国

国家の興廃をかけた戦争

ロシア帝国の面積は日本の約六〇倍、人口は三・七倍、極東の兵力だけでも一・八倍という大国となつて約四〇年の日本には無謀ともいえる決死の覚悟の戦争でした。「皇国の興廃この一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」という言葉があります。大日本帝国海軍連合艦隊とロシア帝国バルチック艦隊が決戦した一九〇五年五月の日本海海戦のとき、第一艦隊参謀秋山真之が開戦直前に各艦に送信した有名な言葉です。

頭脳明晰かつ豪放磊落な明石

明石は幕末の一八六四年に九州の福岡藩の重臣明石助九郎貞儀の次男として、福岡市大名町に誕生した。明石が三歳のとき、理由は明確ではありませんが、父親の貞儀が二八歳で切腹してしまいます。以後は寡婦秀子により養育されますが、幕末の動乱の時期で生活は困窮します。しかし秀子は内職で家計を維持しながらも、子供が金銭に拘泥することを嫌悪し「命を惜しむな、恥を惜しめ」という武士の心構えを徹底教育します。



図2 川上操六 (1864-1919)

語学の天才として活躍した明石

一八九〇年に明石が出仕したときの参謀本部総長は有栖川宮鳩仁親王でしたが、実質の仕事は「参謀本部の父親」とされる参謀次長の川上操六が仕切っていました(図2)。川上は八七年に乃木希典とともにドイツへ留学し、ドイツ帝国陸軍参謀総長H・フォン・モルトケに師事します。普仏戦争の勝利に貢献した「世界軍事界最高峰」とい

活躍しました。八三年に卒業して少尉となり、東京の陸軍戸山学校の教官に就任しますが、八七年に陸軍大学校に入学、八九年に卒業して青森歩兵第五連隊を經由して九〇年に陸軍参謀本部に出任します。

それ以後の活躍を説明するために、明石の人物を紹介しておきます。子供の時代から頭脳明晰であり、陸軍幼年学校の生徒のときの成績は語学が一位、漢学が六位、算学が五位で、総合成績は六五名中十九番目でした。全体の成績が意外に下位であったのは、国学が三二位だったことが影響しています。製図自体は素晴らしいのですが、鼻水で用紙を汚してしまうからでした。この逸話が象徴するように、服装などには頓着しない性格でした。

小学生のときの渾名が「はなため」でしたし、陸軍士官学校でも成績は優秀でしたが、服装検査に合格せず、日曜の外出が許可されなほでした。しかし、性格は豪放磊落で、それを証明する有名な逸話もあり、それを福岡県令が小学校を視察したとき、生徒代表の一人として「精神」という文字の習字を披露しますが、用紙一杯になって余白がなくなりましたが、そのまま青畳まで延長して堂々と終了したということでした。

人気の紙芝居が一冊の絵本に。赤れんがものがたり

地震・火山や生物でわかる地球の科学 松田准一著

どうして普通にできないの! 「かくれ」発達障害女子の見えない不安と孤独

愛が拓く新しい道 フィル・ボスマンス著

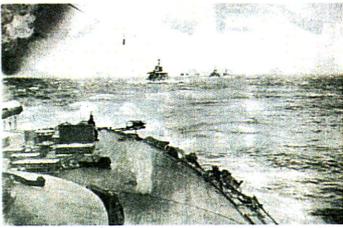


図3 日本海海戦に出撃する帝国艦隊



図4 ポーツマス会議

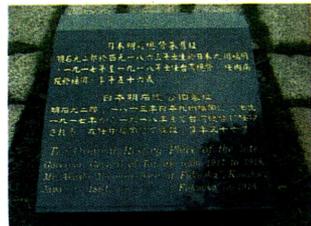


図5 明石台湾総督の(旧)墓址

られる軍人と参謀本部で直話し、川上は情報収集と分析の意義を痛感して帰国、参謀本部を指揮します。

当時の陸軍は薩長の軍閥が支配していたが、川上は出身に関係なく優秀な人材を採用する公正無私な人物で、陸軍大臣になる宇垣(成(備前出身))や上原勇作(日向出身)などが参集していました。その川上の指示により明石は九四年にドイツに留学しますが、翌年に日清戦争が勃発したため帰国し、その戦後、満州を視察します。そこで目撃したのは三国干渉により返還した遼東半島でロシアが着々と戦争の準備をしている現実でした。

そのような時期の一九〇〇年に明石はフランス公使館付武官に任命され、そこで語学才能を発揮します。それぞれの任地でフランス語とロシア語を短期で習得したのです。これに関係する逸話があります。ロシアのウイテ蔵相主催のパーティに出席したとき、英語とフランス語は多少理解できるが、ロシア語とドイツ語は苦手であると自己紹介し、安心して話している人々の会話を盗聴していたということです。

この語学才能を活用し、明石はロシアだけでなく欧州各国の新聞や雑誌を収集して丹念に分析し、ロシアの実情を参謀本部次長の尾玉源太郎を経由して参謀総長の山縣有朋に報告します。ロシア内部には政府への不満分子が多数存在し、ポーランドやフィンランドなどロシア領内にも独立を目指す勢力が存在するので、それらを内密に支援して、援手すれば内部崩壊を減らすという内容で話した。

### ロシアの心臓を攻撃した明石

山縣と尾玉は作戦を決意し、明石に必要な工作資金を見積もらせた。一〇〇万円という回答で、現在に換算すると数十億円になります。これには二人とも躊躇しますが、明石の能力を信用して決意します。一九〇四年二月六日に日本はロシアと国交断絶し、開戦になります。明石はロシアのサンクトペテルブルグからスウェーデンのストックホルムに移動し、地下組織などと連絡して情報を収集するのと同時に、必要な工作資金を提供します。

それ以後、〇四年七月にロシアの秘密警察首領である内務大臣V・プレレルの暗殺、ポーランドでゼネラルストライキ、翌年一月に首都でのデモ行進を弾圧する血の日曜日事件、六月に戦艦ポチョムキンの水兵の反乱などが発生し、ロシアは内部から崩壊して弱体になっていきます。そして五月に皇国の興隆を左右する日本海海戦に日本海軍は劇的な勝利を収め(図3)、九月に日露はポーツマス講和条約を調印して終戦に到達します(図4)。

課報作戦は秘密で実施され、明石の作戦の効果は明瞭ではありませんが、ドイツ皇帝ウィルヘルム二世の「明石一人で日本軍二〇万人に匹敵する戦果をあげている」という言葉や、陸軍参謀本部参謀次長の長岡外史の「明石の活躍は陸軍一〇個師団に相当する」という言葉があります。アメリカで出版された「日露戦争全史」には「東郷や大山はロシアの艦隊や陸軍を撃破したが、明石は心臓を攻撃した」とも記録されています。

明石は戦争の背後で暗躍した軍人ですが、人柄は高潔で、戦争が終了した段階で一〇〇万円の工作資金のうち使用しなかった二七万円を詳細に説明し、長岡外史に返却しています。わずかな誤差がありましたが、それは列車の便所で紛失した金額という事です。この高潔さは以後の人生でも発揮されています。戦争が終了してから、一九〇七年に憲兵隊長に任命されて朝鮮半島の治安維持の任務遂行のため、一四年まで滞りま

明石は悪化していた韓国の治安対策として、失業していた人々を治安要員として雇うという大胆な手段で治安を回復しますが、それ以外にも業績があります。大韓帝国の首都漢城の衛生状態が不潔であり、コレラなどの流行が懸念されたため井戸や便所を整備して、無法の伐採で荒れになっていた土地に植林を推進して森林を造り成しています。現在、韓国の森林面積比率は約六三%で世界でも上位ですが、これも明石の功績です。

韓国での業績が評価され、明石は一四年に参謀次長になり、一八年に第七代台湾総督に任命されます。明石は「台湾は東洋の心臓」という理念で、台湾の産業発展を目指し、水力発電所や新製鉄道の建設とともに司法制度や教育制度の整備を遂行しています。一九年に体調が悪化して療養のため帰国しますが、到着直後、郷里の福岡で世界に誇っていたため、遺骸は台湾に送還され、立派な墓地に埋葬されています(図5)。

### 情報戦争に出遅れる日本

明石の時代の諜報戦争は新聞などの公開情報を分析するオシエリ(オープン・ソース・インテリジェンス)と、人間経由で情報を収集するヒューミント(ヒューマン・インテリジェンス)が中心でしたが、現在はE・スノーデンが暴露したような電気通信を盗聴するシグント(シグナル・インテリジェンス)が主流です。それは戦時だけでなく、昨年のアメリカ大統領選挙にロシアの諜報機関の関与が推測されるように、平時でも展開されています。

この分野で日本は出遅れています。アメリカは二〇一〇年にサイバー軍を創設、中国も一

年にサイバー軍の存在を公表しましたが、日本は三年にサイバー防衛隊準備室を設置という出遅れです。日本の技術や人材の不足も原因ですが、最大の問題は日本周辺で中国、ロシア、北朝鮮などの圧力が増大しているにもかかわらず「皇国の興隆この一戦にあり」という国民の危機意識の不足です。日本を救済した明石の偉業を認識すべき時期です。

参考:「歴史街道」二〇一七年四月号



つのお よしお  
1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授を経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら、知床半島塾、羊蹄山麓塾、釧路温泉塾、白馬仰山塾、宮川清流塾、瀬戸内海塾などを主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。主要著書に「日本 百年の転換戦略」(講談社)、「縮小文明の展望」(東京大学出版会)、「地球共生」(講談社)、「地球の救い方」、「水の話」(遊行社)、「100年先を読む」(エッセイ)、「研究所・先住民族の叢書」(遊行社)など。著者プロフィールは「航海物語」(遊行社)。

## 法的な思考と実践事例が、教育現場の問題解決に!

**新刊**

第3版 インターネット新時代の法律実務Q&A

好評のロングセラーを3年ぶりにアップデート! 激変するネット環境への対応に不可欠なQ&A集!

田島 正広(弁護士) 監修・編集代表/編著  
2017年2月刊 A5判 408頁 定価3,780円

**学校内弁護士**  
学校現場のための教育紛争対策ガイドブック

学級担任を務め、現場を知る弁護士が日々起こる問題の解決手段を明示

神内 聡 著 2016年8月刊 A5判 272頁 定価2,916円  
本書でくらし総合法律事務所 監修・東京高等学校教科書編集

子どもの幸せのために

児童相談所における子ども虐待事案への法的対応 常勤弁護士の視点から

久保 健二 著 見相で何が起きているのか?

2016年10月刊 A5判 448頁 定価4,212円

【第3版】インターネット新時代の法律実務Q&A

好評のロングセラーを3年ぶりにアップデート! 激変するネット環境への対応に不可欠なQ&A集!

田島 正広(弁護士) 監修・編集代表/編著  
2017年2月刊 A5判 408頁 定価3,780円

**新しい学校法務の実践と理論**  
教育現場と弁護士の効果的な連携のために

山口 卓男(弁護士) 編著 2014年11月刊 A5判 240頁 定価2,700円

【改訂】教職員のための学校の危機管理とクレーム対応  
—いじめ防止対策推進法の施行を受けて—

堀切 忠和(弁護士) 著 2014年6月刊 A5判 184頁 定価1,944円

**子どものための法律と実務**  
裁判・行政・社会の協働と子どもの未来

安倍 嘉人・西岡清一郎 監修  
元・東京高等裁判所 長官 元・東京高等裁判所 長官

2013年11月刊 A5判 452頁 定価4,536円

**子どもと法** 子どもの視点から「社会の問題」を明らかに

棚村 政行 著 2012年10月刊 A5判 392頁 定価3,672円  
早稲田大学法学部教授、弁護士